

はじめに

阪神淡路大震災は本当に恐ろしい体験でした。まさに晴天の霹靂^{へきれき}でした。地震とはあまり縁のないところと思っていた阪神・淡路地方が震度 7 という大地震に襲われたのです。

私たちの想像をはるかにこえた大地震は、日頃の無防備を突く形で死者だけでも 6000 人をこすという大きな被害をもたらしました。

今、当初の混乱も収まり着実に復旧作業が進んでいますが、傷跡は大きく深く完全復興には長年の歳月と莫大な費用を要することと思います。

この大震災で須磨海浜水族園も大きな被害をこうむりました。地震による地盤沈下により海岸に設置された取水ポンプ小屋の陥没や送水配管類の寸断、ホルマリンの液浸標本容器の破損、電気系統のトラブルなど施設、設備面においてかなりの被害がありました。しかし、建物本体には決定的な被害が無かったこと、そして水槽のガラスやアクリルにも損害がなかったことは幸いであつたと思っています。展示生物もおよそ半数が犠牲になりましたが、その主な原因は長時間にわたる停電による水温低下と水質悪化でした。まさに水族園にとって電気は生命線であつたといえます。

一方、水族園は震災当日から市民の避難場所になるとともに、近くの鷹取中学校が避難場所となったために教室不足から同中学校の分校としても利用されました。今、その当時を振り返ってみても、まさに水族園にとって非常事態であつたといえます。

また、マスコミにより水族園の被害状況が日々取り上げられたことにより、多くの水族館や全国の多くの皆さんがその状況を知り、あたたかい支援を寄せて下さいましたことはとかく落ち込みがちとなつていた私たちに大きな励ましとなりました。市民に憩いの場を与えるという水族園の使命に燃えて再開園を急いでいた時だけに大変、勇気づけられました。心からお礼と感謝を申し上げます。

地震から 1 年経った今も阪神高速道路が復旧工事中で通行できず、国道は復興工事車車両専用道路として交通規制がなされており入園者もいちじるしく減少しています。都市機能の早期回復を待ち望んでいるのは私たちだけではないでしょう。

今回の震災は私たちに貴重な教訓を残してくれました。

将来における水族園の施設・設備の維持、展示方法、危機管理体制など様々な問題提起をしてくださいました。これに対して、今後時間を要するものあるいは相当な経費を要するものもありますがこれらの課題について克服していかなければならないと考えています。

日本列島が地震の活動期に入ったともいわれる昨今、地震被害に対する備えはより身近な問題としてとらえなければならなくなりました。

この報告書が少しでもお役に立てれば幸いです。

平成 8 年 5 月

神戸市立須磨海浜水族園長

鮫 島 叡